

まちそだてはひとそだてから

—青森県黒石市におけるまちそだての取り組み—

黒石市商工観光部
観光課 太田 淳也

自己紹介

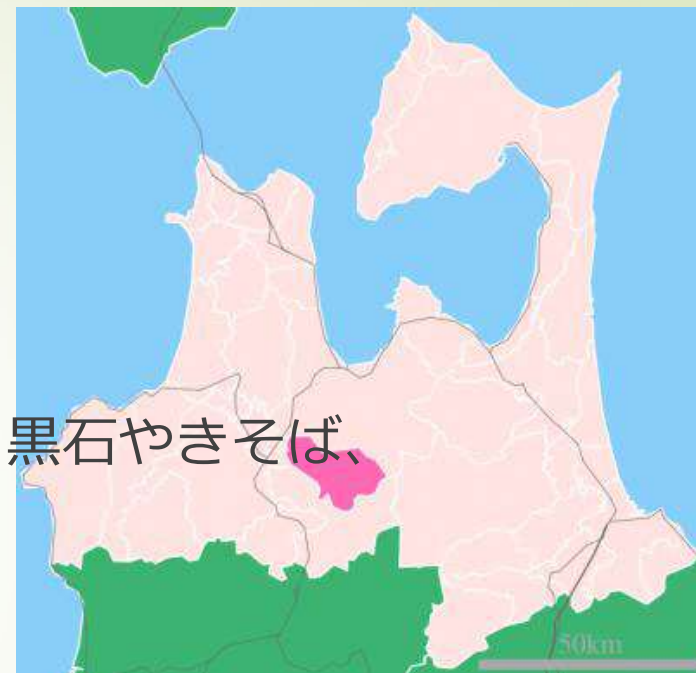
- ▶ 平成3年 黒石市入庁 建設部都市開発課
- ▶ 平成4年 建設部区画整理課
- ▶ 平成9年 建設部建設課 土木担当
- ▶ 平成13年 青森県庁道路課出向
- ▶ 平成14年 建設部建設課 土木担当
- ▶ 平成17年 建設部建設課 都市計画担当
- ▶ 平成28年 企画財政部広報情報システム課
- ▶ 平成30年 建設部土木課
- ▶ 令和2年 一般社団法人Clan PEONY 津軽派遣
- ▶ 令和5年 黒石市 商工観光部観光課

目次

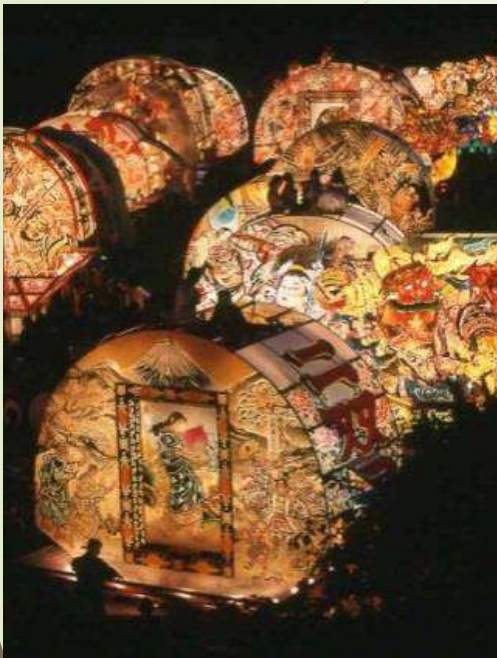
1. 黒石市の概要
2. 重要伝統的建造物群保存地区「中町こみせ通り」のこれまで
3. なぜ伝建を生かしたまちそだてに取り組んだか
4. まちそだてと民間団体との関わり
5. 民間所有の歴史的建物等の活用
6. 空き店舗対策
7. 取り組みの結果
8. これからの展望

黒石市の概要

- ▶ 人口：31,229人（令和5年8月末現在）
- ▶ 面積：216.96km²
- ▶ 特産品：りんご、米、日本酒、りんご加工品、黒石やきそば、
つゆやきそば、津軽こけし
- ▶ 祭り：黒石ねぷたまつり、黒石よされ
- ▶ 観光：こみせ通り(重要伝統的建造物群保存地区)、
中野もみじ山、黒石温泉郷



黒石市の概要



黒石ねぶた



黒石よされ



黒石りんご



中野もみじ山



温泉

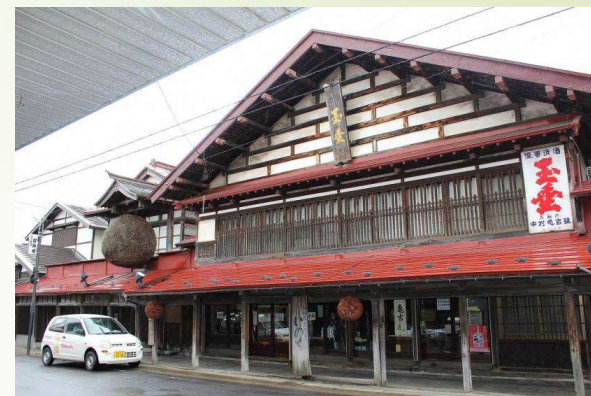
黒石市の概要



つゆやきそば



(株)鳴海醸造店

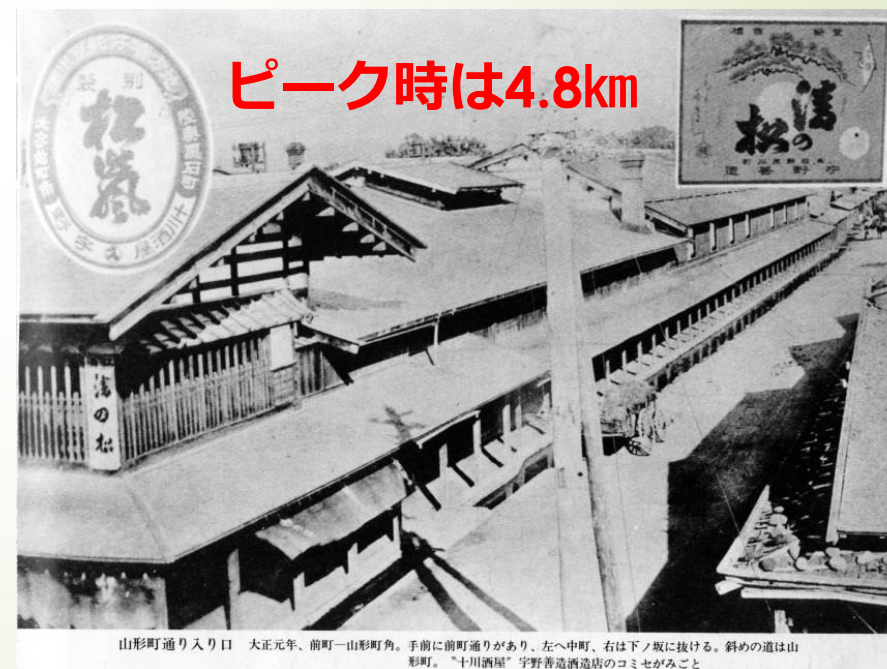


(株)中村亀吉



重要伝統的建造物群保存地区 「中町こみせ通り」のこれまで

こみせとは



重要伝統的建造物群保存地区 「中町こみせ通り」のこれまで

- ▶ 昔は4.8kmもあったこみせが



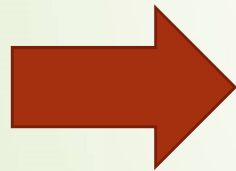
- ▶ 現在は約150m
- ▶ こみせが無くなった理由
- ▶ 江戸時代から繰り返された大火
- ▶ 老朽化で建物が新しくなった際に作られなかった
- ▶ 車社会の進展 → 一間間隔では車の出入りができない
- ▶ お店を辞めて必要がなくなった
- ▶ 住む人がいなくなった

重要伝統的建造物群保存地区 「中町こみせ通り」のこれまで

- ▶ まちなかの経緯

重要伝統的建造物群保存地区 「中町こみせ通り」のこれまで

- ▶ 平成17年に重要伝統的建造物群保存地区
- ▶ 指定以降の修理・修景事業
- ▶ 土蔵の外壁の修理、屋根の修理、こみせの修景



屋根や外壁の修理が多く公開活用に繋がるような動きがあまり見られなかった。

なぜ重要伝統的建造物群保存地区を活用したまちづくりに取り組んだか

黒石市は財政難で第2の夕張と言われており、このままでは黒石市はなくなるのではないかと考えていた。市がなくなっても市民は残る
⇒暮らしやすく、継続して稼ぐ仕組みが必要

- 平成17年に都市計画担当となった。
- 平成22年に都市計画マスタープランを策定した際にまちづくりの実現化方策を定めた。
- 基本的な考え方として、「みんなで創る歴史とともにくらすあずましの里くろいし」を掲げ市民、行政、民間事業者が協働して進めることとした。
 1. まちづくりの場づくり：NPOなどの市民活動がしやすい環境の整備
 2. まちづくりの活動相談機能を充実させ自主的な活動を支援
 3. まちづくりの担い手となる人材育成を行うため人材の発掘と人材育成の支援を行う。
 4. 学校教育、地域や家庭が連携することで学習機会の充実を図る。

なぜ重要伝統的建造物群保存地区を活用したまちづくりに取り組んだか

この計画をもとに、短期、中期、長期で行動計画を策定した。

その中に自分なりに考えた都市計画的なもの、計画的な観点から必要と思われるもの、道路網、交通体系、観光資源の活用、中心市街地の活性化、空き店舗対策、イベントの開催、まちなか居住、防災まちづくりなどを入れ込み、優先度の高いものに取り組んできた。

大きく分けると

- 都市的な観点から用途地域の見直しと長期未着手の都市計画道路の廃止
- 旧松の湯の活用⇒保存だけでなくしっかりと活用していく方策
- まちを楽しみながら活用する人材の育成
- 修景することで観光につなげ、空き店舗の解消を図る

なぜ重要伝統的建造物群保存地区を活用したまちづくりに取り組んだか

松の湯を再生し活用していくためには、まずは地元の人を楽しむ場を作ることが肝要であり、地元の人を楽しめる場所は観光客が来ても楽しい場所になると考え、まちを楽しむことができる人を育てようと考えた。

○滋賀県長浜市の黒壁スクエア⇒まちづくり活動をしている人にヒアリング
⇒ある程度の形ができるまで20年くらいかかっている

○黒石市でもまちを楽しんでまちづくりに取り組む人を育てていかないと松の湯の再生工事が完了し、指定管理等で民間に管理をお願いする時までに間に合わないと考え、同時並行で人材育成のプログラムに取り組む

まちそだてと民間団体との関わり

まちそだてに関わっている民間団体として

特定非営利活動法人 横町十文字まちそだて会

目的：中心市街地に「第3の場」をつくる。

⇒まちなかの滞留時間を延長する「第3の場」とは?・・・

家でもなく職場や学校でもない「ホッとくつろげる場所」、「あずましい場所」

設立：平成24年7月（任意団体）

平成26年11月（NPO法人認証）

会員：21名（令和5年3月末現在）

活動内容：松の湯交流館指定管理、まち歩きツアーの開催、店舗改装、空き店舗対策、IRODORI運営、
ab coffee運営

まちそだてと民間団体との関わり

手 法

メインストリートプログラム

商店街などの小さなエリアをマネジメントする人材を発掘、育成するもの

⇒一過性のイベントに依存しないまちそだて

- ①多様な主体を巻き込んだ「組織」づくり
- ②ハード的環境整備に結びつく「デザイン」づくり
- ③地域資源を活用した「プロモーション」の実施
- ④再生マネジメントに必要な「新たな収益源」の確保

この4つのプログラムを包括的かつ、持続的にアプローチすることで、小さなエリアの活性化から、まち全体の活性化へボトムアップする活性化手法である。

まちそだてと民間団体との関わり

活動内容

- まち歩きツアー
- 空き店舗調査、活用検討（浴衣散歩）
- まちコンイベント（市からの委託事業）
- 蔵で蔵出し酒の会⇒冬のコンテンツとして造成
- 平成29年度から松の湯交流館の指定管理者
- 台湾の臺中市牛罵頭文化協進会と姉妹会の締結
- 令和2年度IRODORIオープン
- 令和5年度abcoffeeオープン



民間所有の歴史的建物等の活用

まちなかで活用している建物

西谷家住宅



民間所有の歴史的建物等の活用

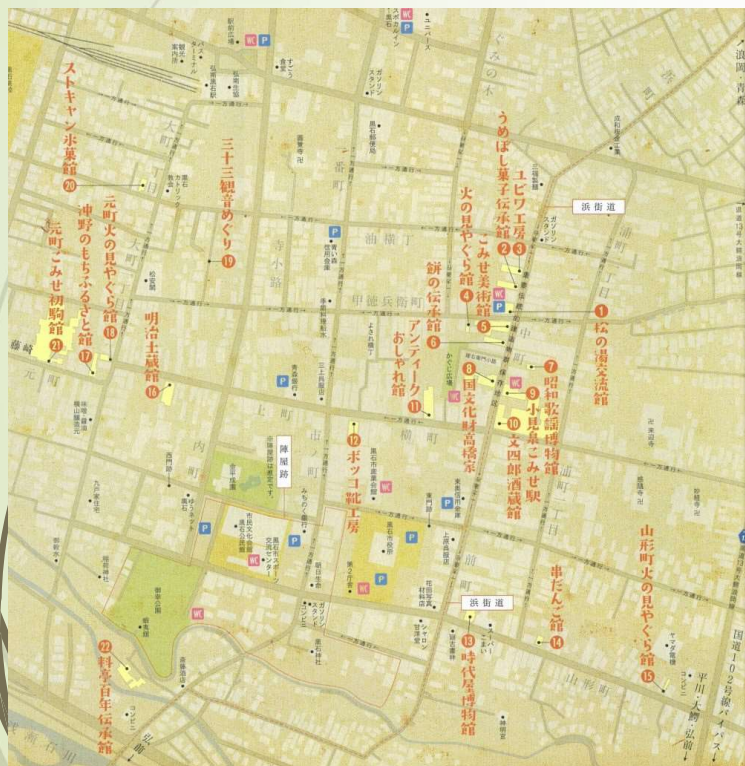
まちなかで活用している建物

第3消防屯所



民間所有の歴史的建物等の活用

まちなかで活用している建物 小さなまちかど博物館



黒石まちなか豆知識

町のなりたち
今から約200年前、津軽藩の藩主津軽ある彦の跡に於ける津軽屋敷(のぶさ)的津軽町(黒石)から至平石を分岐されて「津軽屋敷」が誕生しました。重要家屋を有する歴史的建造物のある街並いに津軽屋敷を築きました。津軽屋敷は津軽藩に属する藩の陣所とする場所でした。また、それまであった町並みに津軽屋敷を築き、津軽屋敷と古い町並りが、中町にある「こみせ」も個人事業主による歴史が感じられるものでした。こみせは津軽藩に属して来た町並りでした。いち早く津軽藩が建設された町並りにある町並り(「町並」)したのもこのころで、通りには津軽、津軽、米屋などの商家が多く建ち並びにありました。黒石も昔ながらの通り津軽、米屋、津軽、津軽の町並り。こみせのある町並りも歴史が感じられます。

大石匠学道園
江戸時代中期から明治にかけて、津軽で「文政定置園」という地方特色が濃く残りました。平川町の「定置園」。黒石町の「定置園」。定置園は、黒石町の「定置園」です。大石匠学道園は、黒石町の「定置園」です。定置園は、津軽藩に属する藩の陣所とする場所でした。また、それまであった町並みに津軽屋敷を築き、津軽屋敷と古い町並りが、中町にある「こみせ」も個人事業主による歴史が感じられるものでした。こみせは津軽藩に属して来た町並りでした。いち早く津軽藩が建設された町並りにある町並り(「町並」)したのもこのころで、通りには津軽、津軽、米屋などの商家が多く建ち並びにありました。黒石も昔ながらの通り津軽、米屋、津軽、津軽の町並り。こみせのある町並りも歴史が感じられます。

新にたつた歴史の歴史
本館は黒石の藩政期の町並りです。大石匠学道園は、黒石町の「定置園」です。定置園は、津軽藩に属する藩の陣所とする場所でした。また、それまであった町並みに津軽屋敷を築き、津軽屋敷と古い町並りが、中町にある「こみせ」も個人事業主による歴史が感じられるものでした。こみせは津軽藩に属して来た町並りでした。いち早く津軽藩が建設された町並りにある町並り(「町並」)したのもこのころで、通りには津軽、津軽、米屋などの商家が多く建ち並びにありました。黒石も昔ながらの通り津軽、米屋、津軽、津軽の町並り。こみせのある町並りも歴史が感じられます。

黒石市小さなまちかど博物館 おすすめコース

土地の活用は、歴史や文化などを活用して行うことができます。黒石市小さなまちかど博物館は、活用している建物がありますので、このガイドマップを参考にまち歩きを楽しんでください。

<p>① 元町火の見やぐら 【歴史ある建物と景観めぐり】 黒石市元町1-1-1 黒石市元町1-1-1 黒石市元町1-1-1 黒石市元町1-1-1 黒石市元町1-1-1 黒石市元町1-1-1 黒石市元町1-1-1 黒石市元町1-1-1 黒石市元町1-1-1</p>	<p>② 三十三観音めぐり 【歴史ある建物と景観めぐり】 黒石市元町1-1-1 黒石市元町1-1-1 黒石市元町1-1-1 黒石市元町1-1-1 黒石市元町1-1-1 黒石市元町1-1-1 黒石市元町1-1-1 黒石市元町1-1-1 黒石市元町1-1-1</p>
<p>③ ストキャン氷菓館 【歴史ある建物と景観めぐり】 黒石市元町1-1-1 黒石市元町1-1-1 黒石市元町1-1-1 黒石市元町1-1-1 黒石市元町1-1-1 黒石市元町1-1-1 黒石市元町1-1-1 黒石市元町1-1-1 黒石市元町1-1-1</p>	<p>④ 元町こみせ初駒館 【歴史ある建物と景観めぐり】 黒石市元町1-1-1 黒石市元町1-1-1 黒石市元町1-1-1 黒石市元町1-1-1 黒石市元町1-1-1 黒石市元町1-1-1 黒石市元町1-1-1 黒石市元町1-1-1 黒石市元町1-1-1</p>
<p>⑤ 料亭百年伝承館 【歴史ある建物と景観めぐり】 黒石市元町1-1-1 黒石市元町1-1-1 黒石市元町1-1-1 黒石市元町1-1-1 黒石市元町1-1-1 黒石市元町1-1-1 黒石市元町1-1-1 黒石市元町1-1-1 黒石市元町1-1-1</p>	<p>⑥ 山形町火の見やぐら 【歴史ある建物と景観めぐり】 黒石市元町1-1-1 黒石市元町1-1-1 黒石市元町1-1-1 黒石市元町1-1-1 黒石市元町1-1-1 黒石市元町1-1-1 黒石市元町1-1-1 黒石市元町1-1-1 黒石市元町1-1-1</p>

空き店舗対策

まちなかで活用している建物

歴史的な建物ではないですが・・・

まちなかの空き店舗を活用するためのWS⇒2019年度（令和元年度）

○まちなかの空き店舗活用についても取り組んでいる。

中町こみせ通りと横町の交差点にある空き店舗の活用について、可能性を探るため、イベント時の休憩スペースや映画上映イベントなどを開催した。

平成21年に開催したシャレットワークショップのOB・OGに参加してもらい
社会人になったシャレットワークショップを開催

空き店舗対策



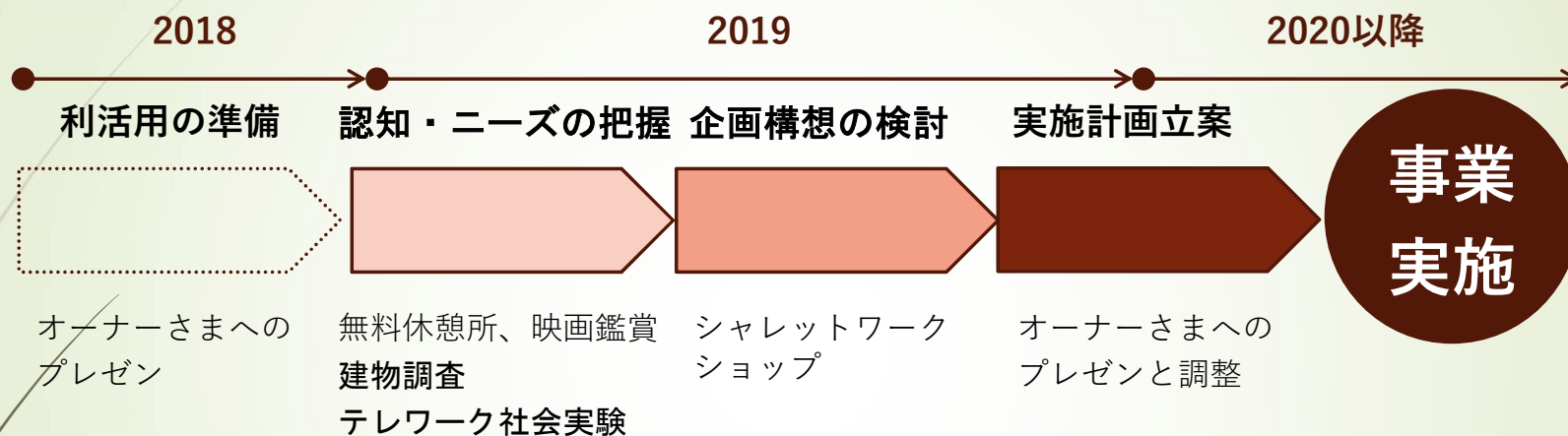
その「シャッター」を開けよう！
～オープン旧ストゼン&タウン

まちそだてデザインサポート

(NPO法人横町十文字まちそだて会+NPO法人まちづくりデザインサポート)

2020.2.17

空き店舗対策



無料休憩所の開設 (R01.06)
(NPOによる清掃・準備)



映画鑑賞チラシ
(NPOが主催)



テレワーク社会実験※



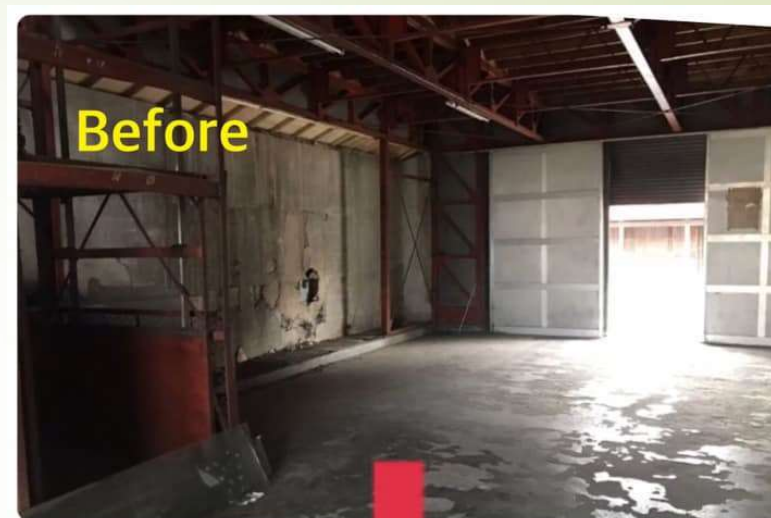
シャレットワークショップ※

※「良好な都市環境やテレワーク拠点の形成等に関するモデル事業」
「民間まちづくり活動促進事業（国土交通省）」の支援を受けて実施

空き店舗対策

黒石キネマ上映

- ・ 倉庫部分を活用
- ・ 7/ 3、 6 に合計3作品を上映
(横町納涼夜店まつりと同日開催)
- ・ 利用者数や反応をコメント



空き店舗対策

意向把握の概要

①目的

- 現在検討を進めている、旧ストゼンの利活用にあたり、こみせまつりを訪問している市民及び来訪者のニーズを把握する

②実施日時・場所

日時：令和元年9月7日（土）8日（日）
10時～16時（こみせまつり無料休憩）

③実施方法

- アンケート調査票を作成し、調査員（4～5名）が市民又は来訪者に対して、インタビュー形式でアンケート調査を実施



空き店舗対策

社会実験の概要

- 1. 期間**
 - 10月14日～11月30日
- 2. 営業時間**
 - 10～16時（11月より18～22時も営業）、日曜定休（不定休）
- 3. 利用料金**
 - 100円/1時間（最大500円）
- 4. 環境整備**
 - 現在の備品や什器を活用し、WiFi、プリンターのレンタルを行った
- 5. 管理体制**
 - 4名のスタッフが交代で管理（夜間は1名の専属スタッフ）



空き店舗対策

シャレットワークショップ開催概要

10:00～開会→ガイダンス→レクチャー



10:30～まち歩き



12:00～グループ作業



17:00～全体ミーティング→グループ作業



9:00～グループ作業



14:00～公开发表会



12月21日 (土)

12月21日 (土)

12月22日 (日)

空き店舗対策

Circle こみせ オープン

空き店舗となっていた建物を活用して、シェアキッチンを備えた貸しスペースとしてオープン
コーヒーや焼き菓子のお店、パン屋さんなど様々な人が関わり黒石の新たな場所となっている。



空き店舗対策

- IRODORI オープン
実際にねぷた祭りで使用されたねぷた絵を活用した
うちわや灯ろうの制作体験工房
ねぷたまつりが終わると捨てられていたねぷた絵を
活用して観光コンテンツとして造成
- 屋台を活用した夜市を開催⇒ナイトコンテンツの開発
空き店舗の解消のために、屋台を使って気軽に出店し、
お試し販売を行いながら実店舗へ出店を促す
屋台で軽く飲んでからまちへ

空き店舗対策

○IRODORI

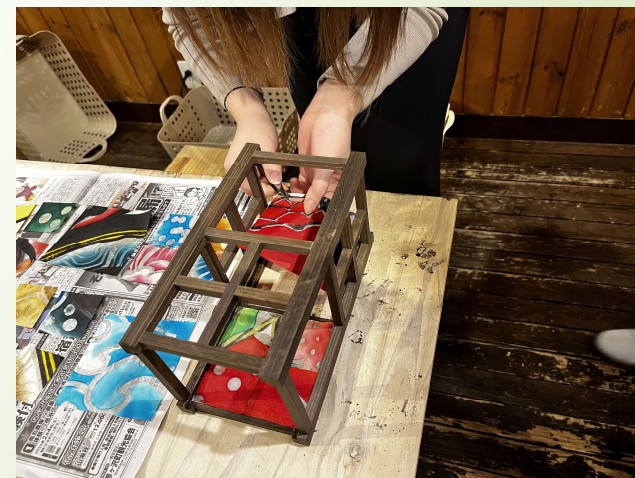
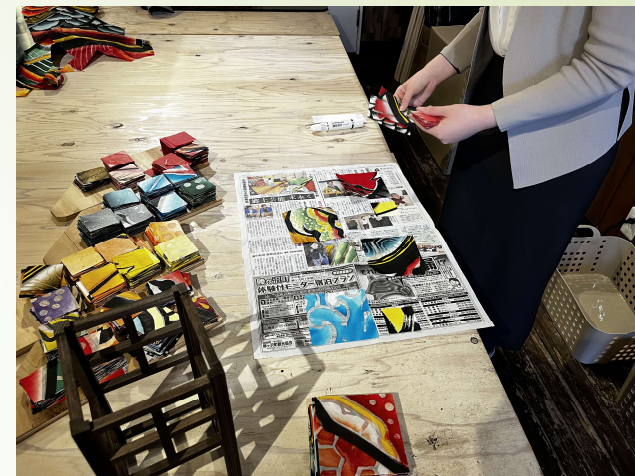
毎年、まつりが終わると捨てられていたねぷた絵を活用して何かできないかと考え、ねぷた絵のうちわ、灯ろう制作の体験ができる店としてオープンさせた。

オリジナルの自分だけのうちわや灯ろうは海外の方にも人気があり、体験者が増加している。⇒三沢の米軍へ出張体験会等

NPO法人で運営しているので、店が儲かるより周囲の店舗への波及効果や絵師さんへの収入につながることを期待している。

空き店舗対策

IRODORIの店内



空き店舗対策

夜市の様子



取り組みの結果

- 松の湯交流館が開館し、まちを楽しむ人が増えた
- 松の湯交流館を中心に様々な活動が行われるようになった
- 指定管理を行っているNPOが独自にまちなかのことに取り組むようになった
- 空き店舗の対策をすることで、多くの若い世代の人が交流し新たなコミュニティを作って活動するようになった



NPOが中心となってまちで活動するようになり、連動して若い人たちがつながり新たな流れがうまれてきている

これからの展望

○市民サービス施設の建設

○（仮称）横町交流館の活用

・市役所の窓口機能をまとめた施設とそれに連動した広場や施設を建設中である。この施設はこみせ通りと国の名勝金平成園を結ぶ動線上にあることからまちの回遊性を高める効果が期待できる。



新たな人材の発掘、育成中





ご静聴いただきありがとうございました